

和漢薬の卒前・卒後教育への新たなとりくみ

薬学部における漢方(薬)への卒前教育での取り組み

二階堂 保

東邦大学薬学部生薬学教室

国公立大学共通の薬学教育モデルカリキュラム案が本年4月にまとめられたが、この中で「現代医療の中の生薬・漢方薬」を学ぶ目標が設定されています。従来、薬学教育の中で漢方(薬)に関する教育は必ずしも十分に行われていたとは言い難いと思います。今日、医学部のコア・カリキュラムに和漢薬を扱う教育項目が入り、さらに70%以上の処方箋に漢方薬が配合されている時代にあつて、「実践生薬学」あるいは「応用生薬学」とも言える「漢方」を生薬関連科目として取り組むことが必要と考えられます。

本学における生薬・漢方薬に対する卒前教育を紹介し、ご意見を伺い今後の参考としてゆきたいと思ひます。

1年次で生薬の原料である薬用植物について「生物学(植物)」として学んできた2年生に対して「生薬学」を実習も含めて教育しています。漢方で用いられる大部分の生薬(各論)を前期に学んだ後、後期には講義と平行して行う実習の中で漢方処方箋を扱い、漢方の基礎を鍼灸を含め、また実習する処方箋などを日頃実際に患者に接している卒業生(鈴木堯先生、井口昌樹先生)に講義をして頂いています。さらに生薬の外部形態の観察、漢方湯液の調整を行つて、エキス製剤との有効成分の比較定量などを行つています。これらの必修科目に続いて、3年次に「漢方」(中村謙介先生)、4年次に「東洋医学」(谷美智士先生)の選択科目が設けられています。これらの正規のカリキュラムとは別に、昨年は「やさしい漢方」講座を学生対象として6回、一般の大学外の近隣の方々を対象に同様の連続講座を開講し、共に150名近くの受講者がありました。このような講座で育つた学生や、すでに社会に出て漢方に携わつたり、興味を持ちつつも勉強の機会を探している薬剤師に、より深く漢方を勉強できる機会を作りたいと考えて「東邦漢方研究会」を発足させました。この研究会発足に併せて学部内に設けた漢方調剤モデル薬局「嚆矢堂薬室」では基礎から実践に至るまでの勉強会(1週2日、各3-4時間)が行われ、10名近くの学生が参加しています。これら漢方への興味を持った学生、卒業生、漢方に携わる医師、薬剤師の方々の交流の場として「漢方フォーラム」を開催しております。

現代医療の中で漢方薬が果たす役割と重要性を理解させ、医療チームの一員として信頼され、活躍できる薬剤師を育て、送り出すために、未だ十分とは言えませんが一歩一歩努力してゆきたいと思ひます。